

凛とした雄大な“ 浅間屋根 ”の下に、人々が集う“ まちニワ空間 ”を

DX の進展により庁舎は、町を知り尽くした " まちのコンシェルジュ (町役場職員)" と、町民や来庁者の情報交換とサポートの場 " 人と人の交流の場 "、" 風土自治の場 " になります。
ゆとりのあるスペースに会議テーブルや仕事環境・コミュニケーションスペースを整え、ホテルのような良質なサービスで生活をサポートする環境を整えます。



図 2-1. 開放された庁舎空間



図 2-2. 浅間山テラス：浅間山を望むテラス



図 2-3. まちの縁側空間：地域のアクティビティを生み出す " まちニワ "

3 機能的・効率的な庁舎 1: 直近の動き方への提案 サービスの多様化による組織変更に対応できる執務空間

訪れた人々を、コンシェルジュ受付サービスで各課に繋ぐことで、ワンストップサービス (クイック窓口) を充実します。窓口機能 (クイック + スティ窓口) を 1フロアにまとめ、利用者の利便性を高めます。

執務空間のオープン化・ワンルーム化：執務空間には、各課の間に間仕切りは設けず、机や椅子のみのユニバーサル・フロアを導入します。

部署間連携や多様な動き方に対応するオフィスレイアウト：通常の執務・窓口空間に加え、複合機や共用パソコンを備えたサポートゾーン、収納などを備えたバックアップゾーンを置くことで横断的な連携や効率的な業務が可能となります。

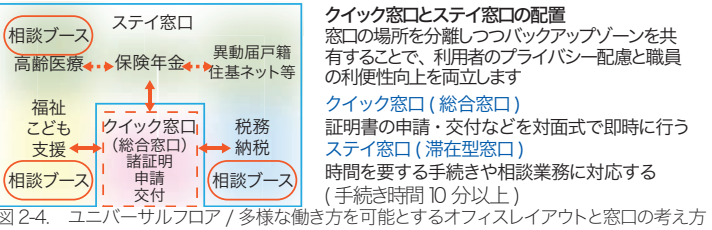
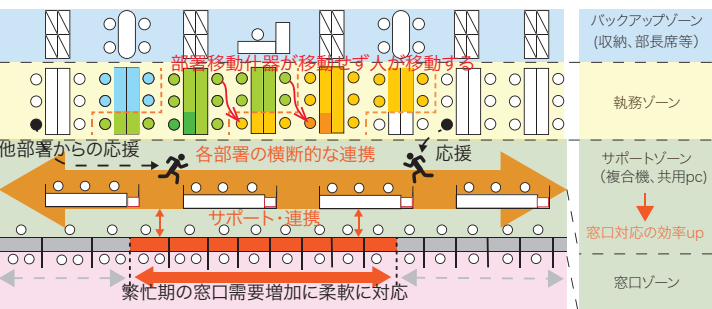


図 2-4. ユニバーサルフロア / 多様な動き方を可能とするオフィスレイアウトと窓口の考え方



図 2-5. 多様な動き方に対応するフレキシブルなレイアウト

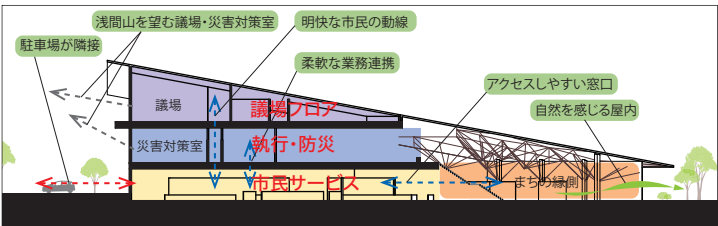


図 2-6. 明快なフロア構成

4 利用者に寄り添う庁舎：将来の執務空間のあり方 起業・産業の起点へ - 新しいコミュニティの場として

ゆとりある良質なサービスを提供する場：将来の DX,MaaS の進展に伴いクイック窓口が減少、相談業務を中心としたフェイストゥフェイスのサービスが増加します。またサービスの多様化に合わせて、柔軟に平面計画を変更することができます。市民エリアを拡張することで、ホテル・ラウンジのような快適な空間の中で、良質なサービスを提供できる場をつくります。

定住人口を増やす取組み：拡張された市民エリアでは、様々な町民の活動やスタートアップ支援に使用することができます。

段階的な公共交通整備：将来的な DX を見据え、軽井沢病院ロータリーを一体的に整備することで、利便性の高い車両動線を計画します。50 年 100 年後の未来にはシビックコアを森を囲み、病院と連携したウェルネスリゾートのシンボルエリアとなります。



図 2-7. MaaS 進展に伴う執務空間の変化



図 2-8. 段階的な公共交通整備



図 2-9. 将来の庁舎空間：クイック窓口は縮小され、多様なサービスを行う空間となる



図 2-10. 文化遺産・教育文化施設のネットワーク